



今回は、7月1日の全校放送朝会の話と、6月19日の福岡大空襲についての記事を載せます。

## ～全校放送朝会の話から～

～話したときに近い言葉で書いています～

みなさん、2月以来の久しぶりの全校放送朝会ですね。

さて、6月10日は、「時の記念日」でした。「時」、つまり、「時間」のことですね。

校長先生は、この日、時間のことを考えたときに、ふと、次のようなお話を思い出しました。

それは、ドラえもん「タイムマシン」という話です。聞いてください。

この話はね、のび太くんが、夏休みの間、ずーっと遊んでしまうんです。そして、夏休みの最後の日になってしまっているのに、まだ、宿題がたくさん残っているときの話なんです。

さあ、みなさん、宿題が終わっていないのび太くん、どうしたと思いますか。のび太くんは、いつものように、「宿題を明日の朝までにやってほしい。」とドラえもんに頼みこむのです。

でも、さすがドラえもん。すぐには、「うん、いいよ。」とは言いません。だって、のび太くんのためにならないですからね。

そこで、のび太くん、次にどうしたと思いますか。それは、これです。“どら焼き”です。

のび太くんは、「どら焼きをあげるから。」と言って、ついに、ドラえもん宿題を引き受けさせてしまいます。最初は「宿題はしない。」と言っていたドラえもんですが、どら焼きを見せられたら、つい、「うん。」と言ってしまいました。

それで、どら焼きを食べたドラえもんは、約束通り宿題を始めるのですが、でも、ちょっと困ってしまいました。それは、次の日の朝までに宿題を終わらせるのは、時間が足りなくて、とても無理だったのです。「宿題を終わらせるためには、もっとたくさん仲間がいないとだめだな。」そう思って…

ドラえもんは、いいことを思いついたのです。「そうだ。タイムマシンを使って、未来の自分を連れてくればいいんだ。」たくさんの自分、つまり、たくさんのドラえもんで宿題をやれば早く終わると思ったんですね。

そこで、ドラえもんは、タイムマシンに乗って、「2時間後の自分」、「4時間後の自分」、「6時間後の自分」、「8時間後の自分」を連れてきます。すると、5人のドラえもんになります。そして、その5人のドラえもんで宿題をしました。頭いいですね。

5人で一緒に宿題をしたおかげで、宿題もなんとか終わりました。しかし、実は、そのあとが大変だったのです。ドラえもんは、宿題が終わり、とても疲れていたのもので眠り始めました。



すると、2時間経ったときに2時間前のドラえもんがやってきて、「頼むから宿題を一緒にしてよ。」と頼みます。せっかく寝ていたのに起こされてしまうのです。そう、自分が2時間後のドラえもんに宿題を頼んでいたから、2時間経つと前のドラえもんが頼みにやってくるのです。それで、なんとか宿題をやり終えて疲れて寝始めたら、今度は4時間前のドラえもんが「宿題を一緒にしてよ。」と頼みにくる…それで、やっと宿題が終わったら、今度は、6時間前のドラえもんが頼みに来る…というわけです。

そして、とうとう、ドラえもんは寝不足になって、イライラして頭にきてしまって、ドラえもんどうしてけんかが始まります。

おもしろいですね。ドラえもんは疲れているのに何度も起こされてしまい、とうとう、けんかになってしまうというお話です。

それにしても、のび太くんは、いけませんねえ。すぐにドラえもん頼ってしまって。ちょうどこんな感じです。「ドラえもん〜ん」ってよく泣きついていますよね。

みなさんも、今年の夏休みの終わりのときに、「宿題がまだ終わっていない。」と言って、お家の人に、「なんとかして〜」とか言って泣きつくようなことはしないでくださいよ。

でも、校長先生は、次に、ドラえもんのことについて考えてみました。そして、「ドラえもんはえらいなあ。」と思いました。なぜなら、「人のために、自分の時間を使っている」からです。頼まれたことをやり終えるために、自分の時間を使って、人のために一生懸命宿題をがんばっていたんですね。「やさしいなあ。」そして、「えらいなあ。」と思いました。

さて、みなさん、今までの学校での生活のことを思い出してみたら。「他の人のために」時間を使ったことがありますか。

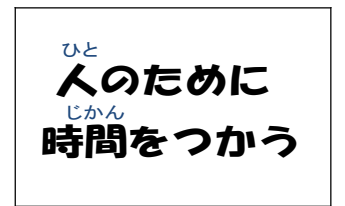
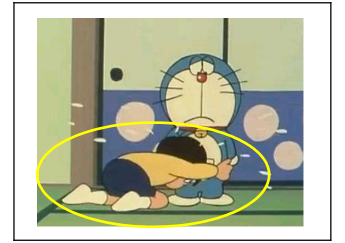
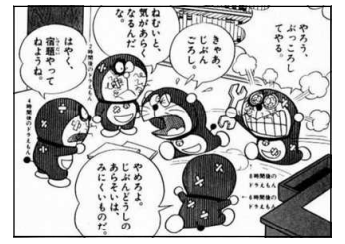
ちょっと聞くと難しいことのように思うかもしれませんが、でも、こんなことではないでしょうか。例えば、「友だちが、休み時間に運動場で遊んでいて転んでケガをしてしまった。その友だちに手をかけて、保健室まで連れて行ってあげた。」

連れて行ってくれた人にとっては、自分の休み時間がそのためになくなってしまって、少し残念ではありますが、でも、その人は、友だちのために“やさしい時間”を使いました。

たいていの人の場合、自分のことが1番、そして、2番目に友だちのことを考えるのですが、1番目に友だちのこと、2番目に自分のことを考えて、友だちのために手伝ってあげることができたのです。そんなことができる人は、とても友だち思いのやさしい人だと思います。

そのように考えると、例えば、あいさつをしている時間、ほんの短い時間ですが、それも、自分の時間を相手のために使っている時間と言えるのかもしれない。とても短い時間ですが、でも、とても“すてきな時間”ではないでしょうか。あいさつを、ていねいに、立ち止まって、おじぎをしながらできる人は、おそらく、人のためにやさしく何かをしてあげられるような、そんな人なのだと思いますよ。

これから先、みなさんが、今日のこの話のことを覚えていて、友だちなど他の人のために、少しでも、“やさしい時間”や“すてきな時間”を送ることができたらいいなと思います。



## 福岡大空襲(6/19)の日のビデオ放送での校長の話から

今からずっと前のことです。75年前の話です。  
1945年、そのころは、戦争が 있었습니다。その75年前の今日、6月19日、この福岡では、爆弾を積んだ飛行機が飛んできて空からたくさんの爆弾を落とす空襲という恐ろしい出来事があったのです。  
たくさんの方が亡くなられたのです。今日は、その日と同じ6月19日です。

校長先生は、ずっと前の新聞で、こんな記事を見つけました。  
「ここにも、火の雨 大名の6月19日」という記事です。

この新聞記事には、次のようなことが書かれていました。  
「福岡の天神の近くにある大名という町に住んでいるお年寄りの方たちが集まって、福岡大空襲のことについての文集を作ることになりました。」というものでした。

お年寄りの方々が、それぞれ、自分が体験した福岡大空襲のことについて作文を書いて、綴じ合わせて文集を作ろうとしたのですが、その中の一人、岡部さんという方は、どうしても、最後まで作文を書くことができなかったそうです。  
どうして、作文を書くことができなかったのでしょうか。

岡部さんが話してくれました。  
岡部さんは、その空襲の日、初めは家の地下室のところに隠れていました。そのうちに、爆弾がどんどん落ちてきて、暑くなって、苦しくなって、たまた外に抜け出しました。  
すると、一面火の海で、その上さらにたくさんの爆弾が落ちてきました。

そこで、岡部さんは、「急いで海の方に逃げよう。」と思って、お友だちの「くにちゃん」という女の子と一緒に逃げようと思いました。そうしたら、その瞬間、一緒に逃げていた「くにちゃん」のすぐ側に爆弾が落ちてきて、岡部さんの目の前で、友だちの「くにちゃん」が死んでしまったのだそうです。

岡部さんは、そのときのことを思い出すと、とても悲しくて、怖くて、苦しくてたまらなくなるのです。  
だから、「作文を書いてください。」と言われても、そのときのことを思い出すと、とてもつらくなって、それで、とうとう作文を書くことができなかったのだそうです。

今は、そのあたりは天神の町で、新しいビルがたくさん建っていて、大空襲があったころの様子はほとんど残っていません。  
しかし、そこには、昔、そんな恐ろしいことがあったのです。

さて、みなさんの中には、この「福岡大空襲」という言葉を聞いたことがある人もいるでしょう。福岡のいろいろなところに爆弾が落とされたのですが、その中でも、特に、博多駅の近くの奈良屋、冷泉、大浜、天神の近くの大名、箕子のあたりが大きな被害を受けたのです。

そのときに爆弾を落とすために飛んできた飛行機の数、約220機だったと言われています。  
そんなにも多くの飛行機が飛んできたんですね。

この写真を見てください。  
このような飛行機がたくさん飛んできたのです。

ひ あめ  
「ここにも火の雨、  
だいまい がつ いち  
大名の6月19日」

ふくおか だいくしゅう  
福岡大空襲のとき  
おかべ  
岡部さんは・・・

ふくおか だいくしゅう  
福岡大空襲について



次の写真を見てください。  
この写真の下の方に、何か煙突のようなものが見えますね。  
その建物の上に、空からたくさんの光の筋が落ちてきています。  
これは、焼夷弾という爆弾が落ちてきている写真です。  
光の筋のように見えていますね。

大きな飛行機からたくさんの爆弾が落ちてきたのです。  
このような状態が、約2時間も続いたそうです。

先ほど話した岡部さんは、このような中を走って逃げたんですよ。  
本当に怖かっただろうと思います。  
「もし、そこに自分がいたとしたら。」そう考えると、本当に恐ろしいですね。

この福岡大空襲で亡くなった人は、約900人。  
行方がわからなくなってしまった人は、約250人。  
合わせて、1000人以上の人が亡くなったと言われています。

次の写真は、爆弾が落とされた後の福岡市の町の写真です。  
焼け跡になっていますね。  
いくつかビルが残っていますが、ほとんどの家が焼けています。

こちらの写真も、焼け跡になってしまったときの写真です。  
これは、今の天神のところなのだそうです。  
今、三越とか岩田やとかある場所、あそこのあたりは、こんなふうに、ほとんど焼け野原になってしまったんですね。

最後にもう一つ、以前、このような新聞記事も見つけました。  
その記事のタイトルには、「炎の町、薄れる記憶」と書かれていました。

これは、このほどまでに恐ろしいことがあったのですが、もう何年も経ってしまったので、みんながどんどんそのことを忘れてしまっているという意味です。

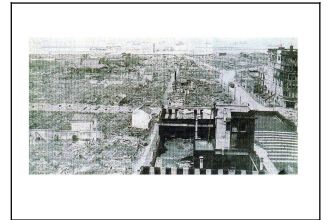
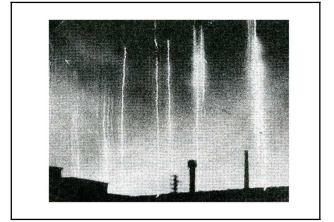
75年も前のことですから、その当時、生きていた人は、どんどん少なくなっています。  
でも、このような「福岡大空襲という恐ろしいことがあったんだ」ということは、みなさんも、先生たちも覚えておくことはできます。

これから二度と、このような悲しい恐ろしいことが起こらないようにするためにも、この福岡大空襲、そこでどんなことがあったのか、それをみなさんたちにも覚えていてほしいなと思います。

## 運動場に子どもたちの声が戻ってきました。

6月15日(月)から午後の授業が始まりましたので、昼休みの時間をとっています。  
平尾小学校は、数年間、校舎の建て替え工事や運動場の整備工事をしていたので、子どもたちは運動場で遊ぶことができませんでした。そのため、本校の運動場で思いっきり遊んだのは、本当に久しぶりなのです。  
子どもたちがうれしそうに走り回り、はしゃいでいる様子を見ると、私たちも、うれしくなります。

また、遊具については、毎日、学校用務員の先生方が、他校から来られて消毒作業をしてくださっています。ありがたいですね。



ほのお まち  
「炎の町、  
うす さおく  
薄れる記憶」

